

勝利は苦戦のあとに来る



皆さん、主のご復活おめでとうございます！

ミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピック中、優勝した日本人の選手たちのインタビューを時々テレビで見っていました。彼らはこの目標に向けてずっと積み重ねてきた苦労を語りながら、喜びの涙を流して勝利を噛み締めていました。日本の国民も「感動した」、「元気付けられた」、「力をもらった」と言って彼らの勝利にあやかっていました。

教会で私たちは主のご復活を迎えました。主のご復活は罪と死に対する勝利です。どのカトリック教会を訪れても、この勝利を生み出した磔刑されたイエス像の十字架が見られます。キリスト教宗派の中でカトリック教会の特徴とも言えるこの十字架像に秘められている真相はイエスの 従順と苦難です。諸国民からなるカトリック教会には、イエスをもっと身近に感じさせるためにそれぞれの国民の姿に似せたイエス像の十字架もあります。

私はずの教会の内陣にぶら下がっている十字架像が好きです。とてもシンプルであるし、遠くから眺めると、白く放たれている光を背後に磔刑されたイエス像は、特定の国の人に似ているというよりも、一人の人間の姿にしか見えないからです。「言(ことば)が肉となった」としか語らない聖書のことばをそのまま捉えた作品だなと思います。

毎日、ごミサを祝う前に私はしばらくこの十字架像をただじっと見つめます。イエスのその惨めな姿こそが、神の愛、世の救い、永遠のいのちへの希望だと自分に言い聞かせます。同時に、日々の生活を支えてくださる人々の労苦を思わせるイエスの姿です。時間になったら立ち上がってイエスの受難と人々の労苦に感謝するために祭壇に向かいます。毎日はこの繰り返しです。

聖金曜日なしには復活の日曜日があり得ないと言われます。イエス・キリストの十字架と復活は表裏一体だということでしょう。信仰の核心であるこの出来事を私たちは年に一度盛大に記念します。同時に、日々この出来事を思い起こしてありがたく生きることによってこの神秘にあやかることはイエスの思いだったのでしょうか。

レジモン・ヴァルギース神父